



平成25年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月9日

上場会社名 アプリックスIPホールディングス株式会社
コード番号 3727 URL <http://www.aplix-ip.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 郡山 龍
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 伊藤 洋

TEL 050-3786-1715

四半期報告書提出予定日 平成25年8月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第2四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第2四半期	3,235	△16.1	△1,175	—	△1,109	—	△1,109	—
24年12月期第2四半期	3,858	△14.1	△627	—	△632	—	△701	—

(注) 包括利益 25年12月期第2四半期 △953百万円 (—%) 24年12月期第2四半期 △673百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第2四半期	△88.43	—
24年12月期第2四半期	△55.86	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	自己資本比率	%
25年12月期第2四半期	11,360	—	9,353	—	82.8	—
24年12月期	12,580	—	10,308	—	82.3	—

(参考) 自己資本 25年12月期第2四半期 9,401百万円 24年12月期 10,355百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年12月期	—	0.00	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,182	9.1	△613	—	△651	—	△798	—	△63.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年12月期2Q	12,553,930 株	24年12月期	12,553,930 株
25年12月期2Q	6,707 株	24年12月期	5,063 株
25年12月期2Q	12,548,012 株	24年12月期2Q	12,550,966 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における当社グループの主な事業分野である携帯電話市場は、国内携帯電話契約加入台数が1億3,329万台で前年同月比105.9%（出典：社団法人電気通信事業者協会発表「携帯電話・PHS契約数」平成25年6月末時点）と増加傾向にあるものの、スマートフォンが占める割合が増加しており、従来型携帯電話端末（以下「フィーチャーフォン」）の販売台数は前年同月比72.6%（出典：J E I T A 携帯電話国内出荷台数実績 平成25年5月末時点）と減少しております。このような、スマートフォンが携帯電話市場全体を牽引する傾向は今後更に顕著になると予想されます。これは海外市場でも同様であり、スマートフォンへの移行はグローバルに進行しております。

また、当社グループの新規事業分野であるM2M市場では、経済産業省がスマートフォンを使ってエアコン等の家電製品の電源を外先から入れられるよう、平成25年5月に電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈を変更し、平成25年7月には電気用品安全法関連法令、省令を改正する（平成26年1月1日施行）等、規制緩和が進んでおります。これらによって電器メーカー各社が家電製品の遠隔操作機能等をより柔軟に開発できるようになり、今後更なる市場の拡大が期待されます。

当社コンテンツ・サービス等事業を取り巻くエンターテインメント市場は、ゲーム・音楽・電子書籍等を中心としたコンテンツ・サービスが多様化するとともに、携帯端末・パソコン・テレビ等への映像配信サービスや、SNS・App Store・Google Playをはじめとするプラットフォームが拡大を続けております。ゲーム業界においては、平成24年に市場規模が過去最高となり、中でもスマートフォン向けのオンラインゲーム市場が大きく拡大しております。更に通信キャリアの垣根を越えて利用できるLINE等のグループコミュニケーションアプリが人気を集める等、新たな分野やビジネスも登場しており、今後更なる市場の拡大やグローバル化が期待されます。

各セグメントの概況は以下のとおりであります。

(a) ソフトウェア基盤技術事業

中核事業であるソフトウェア基盤技術事業の国内市場における製品売上につきましては、フィーチャーフォンの出荷台数減少が影響し、総合的な売上は微減傾向となっておりますが、スマートフォン向けフィーチャーフォン向けとともに、当社製品の出荷比率は堅調に推移しております。しかし、技術支援売上につきましては、スマートフォン向け新規開発案件の受注が減少したことにより大幅な減少となっております。加えて、スマートフォン向け既存開発案件において、ソフトウェアの品質に関する問題が発生したことにより一時的に利益を圧迫しております。これらの結果、国内市場における売上は、前第2四半期連結累計期間に比べ約35%の減少となりました。

海外市場においても、前第2四半期連結会計期間に中国でのスマートフォンの出荷台数がフィーチャーフォンの出荷台数を超える等、スマートフォンへの移行が進んでおります。この結果、Samsung、Motorola Mobility Inc.、Huawei Technologies Co., Ltd.等の大手携帯電話端末メーカーのフィーチャーフォンへの「JBlend」搭載数は減少傾向にあり、当第2四半期連結累計期間の売上に影響しております。

ソフトウェア基盤技術事業の主力事業会社である株式会社アプリックス（以下「アプリックス」）は、前連結会計年度より同事業セグメントのAplix International Inc.（平成25年4月1日付でiaSolution Inc.から商号変更）及びZeemote Technology Inc.とともに、身の回りにある既存の機器につなぐだけでその機器をネットワーク対応にするM2M関連製品である近距離無線通信Bluetooth対応の超小型モジュール「JM1」や、3G回線を利用した通信モジュール「UD1」の開発・提供を推し進め、これまで重厚長大型のものに限られていたM2Mの市場拡大に取り組んでおります。

アプリックスのM2M関連製品は、機器との接続に必要なソフトウェアを搭載することにより、顧客側での開発期間とコストを最小限に抑えることで導入障壁を下げており、製品の省電力化にも成功していることから引き合いが飛躍的に伸びております。

6月中旬に日本玩具協会が開催した日本最大規模の展示会「東京おもちゃショー2013」では、ラジコン、B/Oトレイン等、あらゆる玩具をスマートフォンにつないでスマートフォンアプリと連携させることで、次世代玩具へと変身させるM2M関連製品の活用事例を展示いたしました。本展示会では数多くの玩具メーカーが出展する中、玩具とスマートフォンをつなげるアプリックスのM2M技術に注目が集まり、当該技術が市場を牽引している旨の報道がなされました。

当社は、「JM1」製品群をはじめとするM2M関連事業を当社グループの成長戦略の柱として中核基盤事業に据え、アプリックスの高いソフトウェア開発技術力と先進性を基に、競争力のある製品を市場にいち早く投入することにより、本事業の収益拡大を目指してまいります。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間のソフトウェア基盤技術事業の業績は、売上高1,068,922千円（前第2四半期連結累計期間の売上高1,121,872千円）、営業損失193,995千円（前第2四半期連結累計期間の営業損失582,303千円）となりました。

(b) コンテンツ・サービス等事業

コンテンツ・サービス等事業の主力事業会社である株式会社ジー・モードは、当第1四半期連結会計期間にリリースしたタイトルの販売促進に注力いたしました。

“空気読めてる度”診断ゲーム「空気読み。」シリーズにおいては、5月15日にApp Store、Google Playにおいて、株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシーとの協業により開発した「よしもとの空気読み。」の続編の配信を開始いたしました。また、「空気読み。」シリーズが国内外累計500万ダウンロードを突破したことを記念したキャンペーンを6月6日に実施し、好評を博しました。なお、「空気読み。」シリーズ最新作の開発も進めており、当第4四半期連結会計期間にリリースする予定です。

3月14日にリリースした戦略型本格カードバトルゲーム「蒼穹のスカイガレオン」においては、4月25日及び6月26日に大型アップデートを行い、新機能を追加するとともに新カードパックをリリースし、顧客基盤の強化・拡大及び売上向上に努めました。

一方、本格的なスマートフォンへのプラットフォーム移行に向けたサーバー設備の見直しのための費用が発生し、また、新作タイトルにおいて品質向上のためのリリーススケジュールの見直しを行った結果、前第2四半期連結累計期間と比較して利益に影響が出ております。但し、サーバー設備の見直しにより将来、継続的に固定費が削減される予定であり、また、リリーススケジュールを見直した新作タイトルにつきましては、当連結会計年度中にリリースされる予定です。

株式会社アニメインターナショナルカンパニーが展開するアニメーション制作事業においては、1～3月のテレビ放映向け受託作品2作品に続き、4～6月のテレビ放映向け受託作品1作品と、7～9月のテレビ放映向け受託作品1作品の先行納品による売上を計上しております。また、引き続き出資分配金や制作印税等の著作権収入が売上に貢献しております。

なお、前連結会計年度からの継続課題であります業務効率改善につきましては、拠点集約後に人員の適切な配置を実施しており、当連結会計年度中に改善の効果が出る状況にあります。今後も継続して制作体制の見直しを検討・実施してまいります。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間のコンテンツ・サービス等事業の業績は、売上高2,166,548千円（前第2四半期連結累計期間の売上高2,736,813千円）、営業損失414,380千円（前第2四半期連結累計期間の営業損失44,910千円）となりました。

(c) 調整額

当第2四半期連結累計期間においてセグメント損失の調整額が566,739千円（前第2四半期連結累計期間のセグメント損失の調整額737千円）が発生しております。セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は3,235,470千円（前第2四半期連結累計期間の売上高3,858,685千円）となりました。営業損益につきましては、1,175,115千円の営業損失（前第2四半期連結累計期間の営業損失627,951千円）となりました。経常損益につきましては、主に円安による為替差益63,392千円の計上等により、1,109,666千円の経常損失（前第2四半期連結累計期間の経常損失632,906千円）となりました。四半期純損益につきましては、1,109,667千円の四半期純損失（前第2四半期連結累計期間の四半期純損失701,094千円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第2四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末と比較して1,220,088千円減少し11,360,743千円となりました。これは、現金及び預金が1,048,958千円、投資有価証券が82,158千円減少したこと等によるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して265,773千円減少し2,006,798千円となりました。これは、支払手形及び買掛金が159,119千円、未払金が138,146千円それぞれ減少したこと等によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して954,314千円減少し9,353,944千円となりました。これは、主に四半期純損失を1,109,667千円計上したことに伴い利益剰余金が減少したこと等によるものです。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率につきましては、前連結会計年度末と比較して0.5ポイント増加し、82.8%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の見通しにつきましては、平成25年2月14日の発表数値から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,442,333	2,393,374
受取手形及び売掛金	1,441,801	1,419,096
有価証券	3,008,894	3,181,293
商品及び製品	360,201	358,095
仕掛品	227,277	182,534
その他	701,747	321,688
貸倒引当金	△31,236	△22,414
流動資産合計	9,151,018	7,833,669
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	476,501	432,951
機械、運搬具及び工具器具備品（純額）	185,799	167,386
土地	46,000	46,000
建設仮勘定	2,803	—
有形固定資産合計	711,105	646,337
無形固定資産		
のれん	294,690	241,110
ソフトウェア	1,214,007	1,256,666
ソフトウェア仮勘定	290,889	454,175
その他	5,094	95
無形固定資産合計	1,804,680	1,952,047
投資その他の資産		
投資有価証券	201,104	118,946
その他	712,922	809,741
投資その他の資産合計	914,027	928,687
固定資産合計	3,429,812	3,527,073
資産合計	12,580,831	11,360,743

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	457,652	298,533
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	43,937	40,550
未払金	428,427	290,281
未払法人税等	40,665	25,838
前受金	378,954	486,223
賞与引当金	75,681	85,323
返品調整引当金	29,211	31,644
受注損失引当金	101,571	—
その他	469,366	514,410
流動負債合計	2,125,469	1,872,805
固定負債		
長期借入金	115,985	96,995
退職給付引当金	16,343	20,122
その他	14,774	16,875
固定負債合計	147,102	133,993
負債合計	2,272,572	2,006,798
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,264,700	13,264,700
利益剰余金	△2,567,550	△3,677,217
自己株式	△11,077	△11,782
株主資本合計	10,686,072	9,575,700
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△212,725	△98,748
繰延ヘッジ損益	31,190	—
為替換算調整勘定	△148,617	△75,337
その他の包括利益累計額合計	△330,152	△174,085
新株予約権	△47,660	△47,670
純資産合計	10,308,259	9,353,944
負債純資産合計	12,580,831	11,360,743

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	3,858,685	3,235,470
売上原価	2,992,797	2,942,114
売上総利益	865,887	293,356
販売費及び一般管理費	1,493,839	1,468,472
営業損失(△)	△627,951	△1,175,115
営業外収益		
受取利息	10,143	6,303
受取配当金	900	—
為替差益	7,175	63,392
その他	3,818	6,491
営業外収益合計	22,037	76,186
営業外費用		
支払利息	430	2,127
投資事業組合運用損	11,102	—
持分法による投資損失	10,632	—
支払手数料	4,800	1,100
貸倒損失	—	7,500
その他	26	10
営業外費用合計	26,992	10,737
経常損失(△)	△632,906	△1,109,666
特別利益		
投資有価証券売却益	9,920	3,159
その他	55	9
特別利益合計	9,975	3,169
特別損失		
固定資産除却損	—	9,362
その他	—	1,500
特別損失合計	—	10,862
税金等調整前四半期純損失(△)	△622,931	△1,117,359
法人税、住民税及び事業税	80,754	17,574
法人税等調整額	△2,591	△25,266
法人税等合計	78,163	△7,692
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△701,094	△1,109,667
四半期純損失(△)	△701,094	△1,109,667

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△701,094	△1,109,667
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△19,048	113,976
繰延ヘッジ損益	27,827	△31,190
為替換算調整勘定	11,517	73,280
持分法適用会社に対する持分相当額	7,285	—
その他の包括利益合計	27,581	156,067
四半期包括利益	△673,513	△953,600
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△673,513	△953,600

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。